

23年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年1月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773700469		
法人名	株式会社ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとぴ庵摂津・千里丘		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	摂津市千里丘東1-13-7		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月16日

## 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/">http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8号-102
訪問調査日	平成24年1月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本年度も地域行事や地域防災訓練への参加や消防訓練では近隣の方に協力いただくなど地域との関わりを大切にしています。昨年摂津市認知症支援プロジェクトのメンバーを務め、様々な地域でのイベントや研修などにも協力し、今年は当施設で認知症支援ボランティア講座が開催され、その講座の回想法講師として当施設職員が協力させていただくことになりました。施設行事では花見や夏祭り、クリスマス会など季節行事を沢山取り入れ、利用者様に少しでも季節を感じていただけるよう心掛けています。お食事については、栄養を考えたメニューを家庭と同じように作り、温かいものをその場でお出ししています。今後も地域性にも恵まれた当施設の特徴を活かし地域にひらかれたアットホームな施設を目指します。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>利便性に恵まれた施設は周辺環境にも恵まれ、地域と共に支え・支えられる関係を大切にしながら、地域と密着したサービスの提供に努めている。摂津市と協力し地域へ向けた事業所の特色を生かして、回想法・認知症の勉強会や認知症支援ボランティアの養成講座への講師派遣等地域貢献に努めている。今年度は、さらに地域包括支援センター主催の高齢者権利擁護研修には毎月出席し年間を通して全職員が受講している。事業所でもその研修を開催し地域の介護施設職員と交流を図りながら学んでいる。また、利用者と共に地域の学校の行事や、地域行事へ参加して、交流を図っている。管理者・職員は利用者の日々の生活についての思いや希望、意向を把握し、利用者が自ら意思決定がしやすいように支援方法を検討しながら、法人理念に謳われている「よりよい介護」「感動ある介護」の実践を目指している。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を共有するため各フロアで掲示をして職員への意識付けを行っています。</p>	<p>法人で共通の「よりよい介護」「感動ある介護」と謳われており、利用者に関わる中で自らが感動できるような介護の提供を認識し理念の共有を図っている。年間研修の計画の中で理念・運営方針について研修を実施し定期的に理念・運営方針の振り返りを行い、理念・運営方針を理解し日々のケアに活かせるように具体化に取り組み、浸透を図っている。また、月1回は朝礼の機会に管理者から理念を踏まえた話を行い理念の浸透に取り組んでいる。よりよい介護とは、現在提供している介護に満足せず進歩した介護の提供ができるように考えていくことであると認識している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域行事への参加、地域ボランティア活用、地域の方も参加していただき回想法なども実施しています。</p>	<p>摂津市と協力し地域へ向けた事業所の特色を生かした貢献として、回想法・認知症の勉強会や認知症支援ボランティアの養成講座への講師派遣を行っている。勉強会・養成講座の開催については、市の広報紙で開催の案内・参加の募集がされている。高齢者権利擁護研修には毎月出席し、年間を通して全職員が受講している。事業所でもその研修を開催し地域の介護施設職員と交流を図りながら学んでいる。利用者と共に地域行事への参加は継続している。散歩の際には地域の神社へのお参りを行い交流が持てるようにしている。地域の学校行事への参加も積極的に行い、交流を持つようにしている。利用者の長年通われた習い事などにも参加継続できるように支援し、地域とのつながりが継続できるようにしている。市の介護相談員3名の受け入れも行い、事業所内で交流ができるようにしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症支援ボランティア養成講座等を開催し認知症への理解や支援のあり方など共に勉強しています。</p>		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に会議を開催しご意見をいただきサービスに繋げています。</p>	<p>年6回定期的に会議を開催している。入居者代表・家族代表者・自治会長・地域包括支援センター職員の方に参加してもらい開催している。運営推進会議の内容は、所定の書式に記載し市へ報告を定期的に行っている。今後、地域の他のグループホームと連携を図り運営推進会議への参加を相互に行い知見を有する方の参加を勧め、より多くの意見や提案や助言を受け運営やサービスの質の向上に活かすような取り組みを検討している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>認知症支援プロジェクトメンバーを務め、市町村と連携して認知症支援事業に取り組んでいます。</p>	<p>認知症支援プロジェクトのメンバーとして市とは連携と協働を行っている。プロジェクトに職員が参加することで、他の施設の職員や外部の人との接触で職員自身の資質の向上につながっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員が身体拘束について知識を持ち活用できるよう研修など行っています。</p>	<p>年間の研修計画で定期的に身体拘束・虐待について学ぶ機会を持ち理解と浸透を図っている。危機管理委員会の中で拘束につながる事例や事項はないか確認を行い、拘束を行わないケアの実践の周知徹底が図れるように取り組んでいる。23年度は身体拘束廃止マニュアルの見直しを行い、研修でマニュアルの内容の周知を行っている。「身体拘束を行わないための18のチェックポイント」に沿って研修の中で自己チェックを行いケアの振り返りを通して正しく理解し徹底を図っている。マニュアルの見直しは、職員が理解しケアの実践に生かしていくことができる内容となっている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修やミーティングの機会を設けお互いで意識して防止に取り組んでいます。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内部研修や外部研修を通じて学んでいます。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>その都度に時間をかけ、誤解の無いよう対応しています。</p>	/	/

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や運営推進会議、意見箱などで積極的に意見を取り入れるようにしています。</p>	<p>運営推進会議へ家族の方が参加される際に意見や要望・提案を出す機会となっている。近況報告としてお便り、ゆうとぴ庵通信で家族が利用者の様子がわかるようにし、意見や要望が出してもらいやすくしている。家族が面会時には職員から声かけを行い、普段の生活の様子等を話し意見や要望を直接言いやすい雰囲気作りを行っている。また職員は家族とコミュニケーションをとる中で何気ない言葉から心情を察し、貴重な意見や提案であると捉えて運営やサービスに反映させるように取り組んでいる。家族会も年1回開催し家族からの意見や要望、提案を改めて聴取する機会も持っている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>各会議で意見・提案を聞く場を設け、改善に向けての取り組みを行っています。</p>	<p>毎月実施しているフロアミーティングの中で職員は意見や提案を行うようにしている。出された意見や提案はミーティングの中で話し合いを行い、サービスや運営・業務に反映させるようにしている。フロアで出された意見や提案などは、書面でミーティングの中で反映方法等を含めて主任、管理者、生活委員会に報告されまとめられ、各フロアで統一して反映させていくように取り組んでいる。管理者は、職員から話しやすい雰囲気作りを行っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各職員のスキルアップや資格取得に伴う手当等の設定にて就業関係の改善に努めています。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員に合った研修受講や全職員対象に内部研修も行っています。</p>	/	/
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>施設間の情報交換や施設見学、施設内行事への参加などを行っています。合同研修など実施しています。</p>	/	/

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の希望や不安など伺い信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様と同様家族様にもお話を伺い関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な専門機関との連携を図る事により対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般をお手伝いいただくなど共同生活を楽しんでいただけるよう心がけています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様にとって生きがいのある暮らしを一緒に考えご意見いただくようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の方々に遊びにきていただいたりしています。	友人や知人の来訪がある方については、友人や知人の方に職員から来訪してもらえことへの労いを伝え、来訪しやすい関係を構築するようにしている。馴染みの場所へは外出の機会にドライブで出かけたりしている。馴染みの美容院・店舗への外出はできる限り職員が同行するようにして馴染みの関係が継続できるように支援している。	利用開始後にできた馴染みの関係についても継続できるよう事業所として支援していき取り組みも望ましい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様が気持ちよく暮らせるよう配慮しています。		

22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後も気軽にご相談いただいたり、転居先への訪問など関係の継続に努めています。</p>		
----	--	---	--	--	--

**Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の生活の中で自己決定できるよう支援しています。困難な場合も本人本位を意識して検討しています。</p>	<p>利用者の方から食事についてのリクエストを受け反映させたり、生活についての希望があれば反映させるようにし、思いや希望、意向が叶えられると認識してもらえるようにしている。利用者が自ら意思の決定がしやすいように支援方法を検討し対応している。基本情報から事業所独自のアセスメント表に沿って利用者の思いや意向を把握するようにしている。焦点情報シートでは、暮らしの様々な場面に沿って利用者がしていること、していないことでチェックするだけでなく、私の具体的な言動や場面で利用者が自ら言った言葉を表記したり、自ら発言できない利用者の方の場合には、利用者の立場に立ち考え利用者としての言葉にして明記するようにし全職員が利用者の立場に立ち利用者の思いや意向、希望を把握するようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>本人様、家族様などこれまでの暮らしについてお聞きし反映できるよう努めています。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>できることできないことなど把握し無理のない生活が送れるよう努めています。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>長期的な視点も含めケアのあり方を検討しています。</p>	<p>事業所独自のアセスメントの書式でアセスメントを行い、利用者・家族の希望・要望を踏まえた計画を作成している。ケア実施表で日々計画に沿ったケアの提供ができたか確認を行い、介護経過記録には利用者の様子が記載されている。毎月モニタリング表でモニタリングを行い、モニタリングの結果見直しの必要性がある場合には再アセスメントを行い計画の見直しを実施されている。見直しの必要性がない場合でも3カ月に1回は見直しを実施し同意を得ている。</p>	<p>計画に沿ったケアの提供が行われていることが記録から確認できるが、今後は利用者の日々の生活の状況や様子を介護経過記録に記載し、より良い個別ケアの提供ができる取り組みが望ましい。</p>

27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録やケアの振り返りを行い全体に活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の意見、希望など伺いながら取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や季節の行事などできることに取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの関係を大事にして希望に添った医療が受診できるよう支援しています。	医療連携を同建物内1階の開業医と取っており、適切な医療を受けることができる体制を整えている。医師は毎日来訪され利用者は週2～3回は健康管理のため診てもらえることができる。その他に訪問看護師の来訪も週1回あり徹底した健康管理ができる体制を整えている。身体状況の変化や病状に変化があった時にはすぐに連携医又は希望の医療機関に連絡を取り相談し入院先を紹介してもらい入院となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	定期的に入居者様の状態を相談し個別の情報を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行って	入院時、退院時の情報を相互に文書で交換するなど関係作りをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明を十分に行いまた相談がある時にも家族様の意向を伺い方針を立てています。	入居時より重度化や終末期に向けた方針については説明を行い、利用者・家族の希望や意向を確認している。利用者・家族の意向に沿った状況の変化に応じて話し合いを繰り返し医療と連携を図りながら看取りを行う方針である。看取りを行う場合往診で受けることができる医療処置での対応が可能である。	

34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命、AEDの操作、火災訓練など定期的に行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練では地域の方に参加いただき、地域防災訓練にも参加し協力体制の確保等に取り組んでいます。	年2回消防訓練を実施している。年2回のうち1回は地域の方にも参加してもらい消防訓練を行い、協力体制を整えている。地域の消防訓練にも参加し地域との協力体制は深まっている。運営推進会議で地域の自然災害についても相談と検討を行っており、昔水田であったため水害についても検討の必要性があることの情報提供を受けている。	

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応を心がけています。	一人ひとりに合わせた言葉かけや対応が行えるように配慮している。尊厳やプライバシーについても学ぶ機会を持ち理解と浸透を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話をよく伺い利用者様の思いがどのようなことなのかを知り対応を考えていけるよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お食事や睡眠など本人様の生活のペースに合わせてリズムを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれなど楽しみの持てるように支援しています。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者様の希望をメニューに反映し、食事の準備や後片付けなど無理のない範囲でお手伝いいただいています。</p>	<p>利用者の方から食事についてのリクエストを受けメニューに反映させるようにしている。食材の搬入を受け調理から各フロアで行っている。利用者の希望や体調により準備や後片付けに参加することができるように支援している。食事委員会で利用者のメニューによつての摂取状況や好評であったメニュー、希望のメニューなどを出し、食材の搬入業者へ伝えメニューに反映されるように伝えている。季節によつての行事食も企画しており、食事が楽しみとなるように取り組んでいる。地域の特産の食材である鳥飼なすの提供を毎年受け、利用者が昔から馴染んだ食材で食事が楽しめるように工夫されている。各フロアで調理された食事は、利用者の咀嚼や嚥下の状態に合わせて、刻みやミキサー等で形態を工夫して美味しく、無理なく食べてもらえるようにしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>カロリー栄養バランスに配慮した献立を提供し、摂取量を確認しながら問題がないよう配慮しています。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアを支援し必要に応じて歯科受診もしていただいています。</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>可能な限り自立に向けた取り組みを行い支援しています。</p>	<p>排泄チェック表で利用者一人ひとりのパターンを把握し、トイレでの排泄ができるように声かけや誘導を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日の体操や水分摂取など予防に取り組んでいます。</p>	/	/
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴意思を確認した上で、できる限り一人ひとりの希望に応じ対応しています。</p>	<p>隔日に入浴してもらえるように支援している。利用者の意向を確認してできる限り希望に応じた入浴ができるようにしている。利用者の希望や安全性を考え同性介助をできる限り行うようにしている。</p>	

46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している</p>	<p>夜間の睡眠だけでなく 昼間も様子を見て休ん でいただいています。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や要領につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る</p>	<p>申し送りやミーティング などでお薬について情 報を共有し理解を深め 適切な使用を行って います。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活のリ ズムを大切にレク レーションなど喜び のある支援をして います。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるよう支援している</p>	<p>入院中の家族様との 面会など協力しなが ら行っています。</p>	<p>近隣の神社や公園に散歩に出 かけるようにしている。近隣の 子育て支援センターの園庭解放 にも出向いて散歩が楽しめる機 会も持つようにしている。利用 者の希望や要望により買い物 など外出や散歩の機会がより 多く持てるように工夫している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している</p>	<p>原則、金銭管理は職 員が行っています。但 し、買い物など希望 に応じて自由にして いただいています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取り ができるように支援している</p>	<p>時間や先方のご理 解など配慮した上 で電話や手紙など していただ いています。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、 台所、食堂、浴室、トイレ等)は、 利用者にとって不快や混乱を まねくような刺激(音、光、色、 広さ、温度など)がないように 配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせる ような工夫をしている</p>	<p>生活の場として煩 わしくない空間作 りを心がけて います。</p>	<p>明るく清潔感のある家庭的な 雰囲気のあるフロアで利用者は ゆったりと過ごされている。各 フロアは利用者や職員の個性 が感じられる飾り付けがな され親しみが感じられる。利 用者の状況や状態に合わせて 室内の装飾は細やかな配慮が されている。共用空間のキ ッチンで食事作りをしている 職員の姿や食事の匂いが五 感刺激となっている。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり                  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>個々のプライバシーに配慮し暮らしやすいフロア作りを心がけています。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮                  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具を持ち込んでいただいたり好みに沿ったご利用をしていただいています。</p>	<p>居室内は利用者・家族の希望を取り入れ、利用者の以前から使い慣れた馴染みの物が置かれ、生活環境の変化が少なく一人ひとりの個性豊かな居室作りを支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり                  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>できるだけ安全に生活できるよう工夫し本人様のできることや力を発揮してもらっています。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない